

創立142周年



学校だより

は え

南風の子

中種子町立
南界小学校

平成28年3月11日(金)発行

感謝と憧れの存在 支えてくれた変わらぬ笑顔

校長 岡 留 祐 宏

3月の陽射しは、明るさと柔らかさを増しています。24日には第69回の卒業式を迎え、6年生5人を送り出すこととなります。

先日のお別れ遠足での「6年生を送る会」で、在校生一人ひとりが、思い出とともに6年生にメッセージを伝えてくれました。「いつもいっしょに遊んでくれて楽しかった。」「やさしく接してもらって嬉しかった。」「わかりやすく教えてもらえて助かった。」など、6年生への感謝の言葉が続きました。

その中に、「いつも□□を頑張っていてすごいと思いました。」

「○○兄ちゃん・姉ちゃんみたいになりたいです。」という言葉がありました。下級生が6年生に抱いているものは、「感謝」と「憧れ」の気持ちでしょうか。いい姿を示してくれた6年生、それをちゃんと感じ取る下級生、どちらも嬉しい姿です。

また、在校生も25日で今学年が修了します。「かしこさ」「やさしさ」「たくましさ」それぞれに伸ばしてきた1年でしたが、改めてこの1年を振り返り、自分の成長の跡とこれからの目標についてを確かめてほしいと思います。

保護者、地域の皆様には、この1年、本校の教育活動の推進に御理解と御協力をいただき、本当にありがとうございました。子どもたちは、自分に向けられるいつも変わらぬ笑顔に信頼を寄せ、そして、自分を肯定的に受け止める気持ちを持てるのだろうと思います。今後とも、よろしく願いいたします。



お別れ遠足(熊野海岸)

ぶらんこを止める決意のやうなもの

海津 篤子

学校の図書室にあった「春の季語事典」を何気なく開いてみたら、「ぶらんこ」は、春の季語だと書いてありました。春ののどかさにふさわしい遊びだからだそうです。確かに、寒風の中で、ぶらんこに乗る子どもはあまり見ませんが。子どもの頃は、ゆったりと行ったり来たりするぶらんこに、いつまでも揺られていたい気分だったようにも思います。

さて、この俳句はその本に掲載されていたものです。詠み手の詳しい気持ちはわかりませんが、「ぶらんこを止めるのに大した決意はいらない」でしょう。それでも、日常生活の中には、のどかな気分を切り替えたり、揺れ動く気持ちを整えなければならないことがあります。日常生活は、「小さな決意」の連続かもしれないと思います。

間もなく中学校へ進む6年生には、大きく成長してほしいと願っています。そのためにも、身近にある「ぶらんこを止める」決意をいろいろとして、中学校進学に備えてほしいと思います。



眉の上の高さくらいの目標…

「子ども応援便り」という機関誌があります。今月届いた号に、元マラソン選手の有森裕子さんにインタビューした記事が掲載されていました。以下、有森さんの言葉です。

唯一、私が得意なことは、「人より頑張ること」でした。いつも、「もうダメだ」と思ったら、「あと少しだけ」と、もうひと頑張りしてみる。そうしているうちに、少しずつ、記録が伸びていったのです。母親がよく私に、「眉の上の高さくらいの目標を立てなさい」と言っていました。(中略) そうした小さな成功の積み重ねが、五輪での二大会連続メダル獲得につながったのだと思います。(中略) あきらめなければ、遠回りでも確実に登れる道が見つかる、と思います。

あきらめず、小さな成功体験を積み重ねていく。遠回りでも確実に進む。そういう喜びを子どもたちと共有できる学校、家庭、地域でありたいと思うことです。